



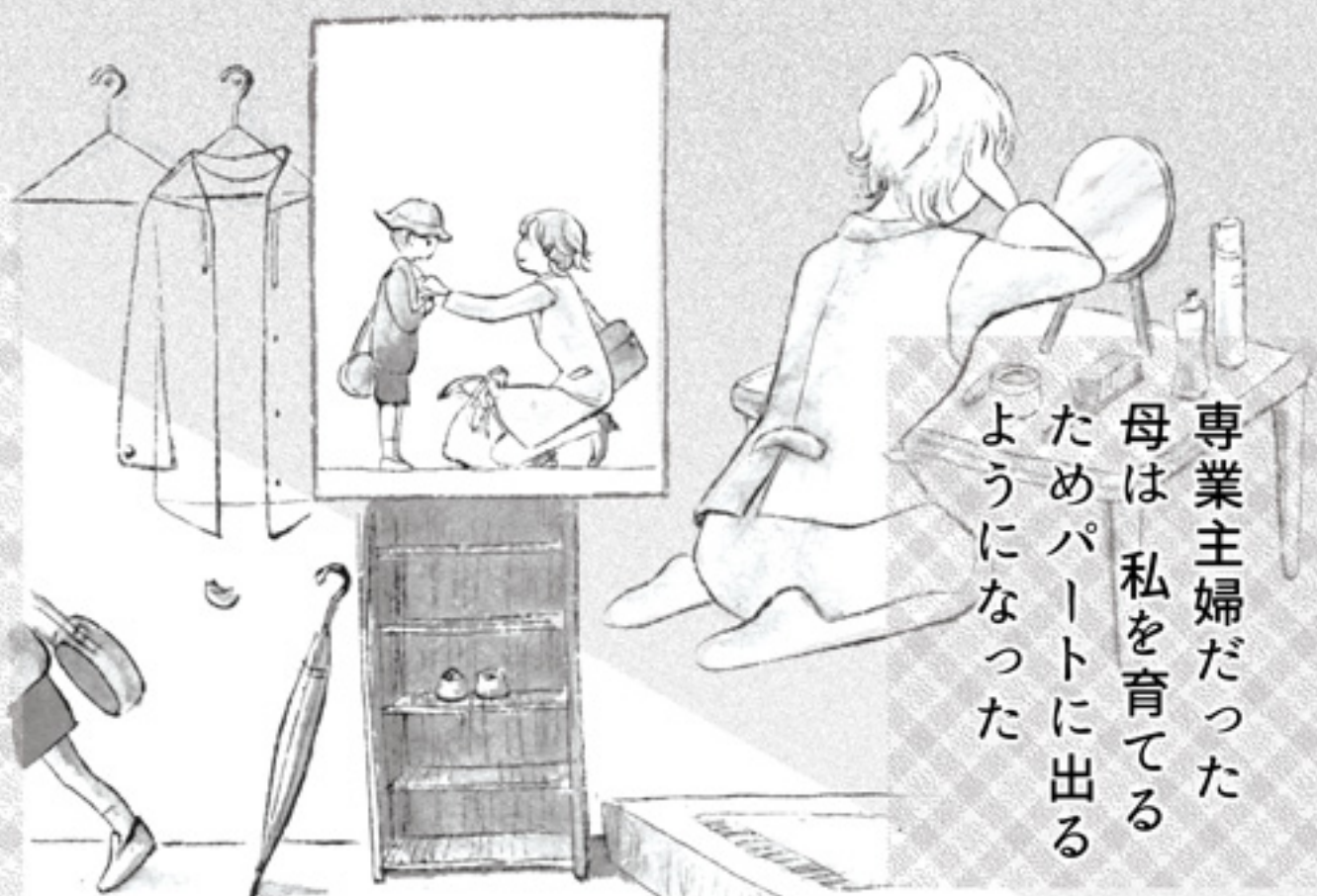
うちの家庭は  
母子家庭だった

父は私が  
小学校に上がる  
前に他界した



専業主婦だった  
母は私を育てる  
ためパートに出る  
ようになった

おそらく家計に余裕は  
なかっただろう、母は  
決して自分のための  
贅沢はしなかった



私が小学3年生に  
なった年

フィルム  
カメラ買って  
きちやった!



お父さんが  
亡くなってから  
全然写真撮って  
なかったでしょう

これからは  
お父さんの  
ぶんまで  
いっぱい  
色々な写真  
撮ろうね



母は言葉通り  
イベントはもちろん

何気ない普段の  
写真も撮るよう  
になった

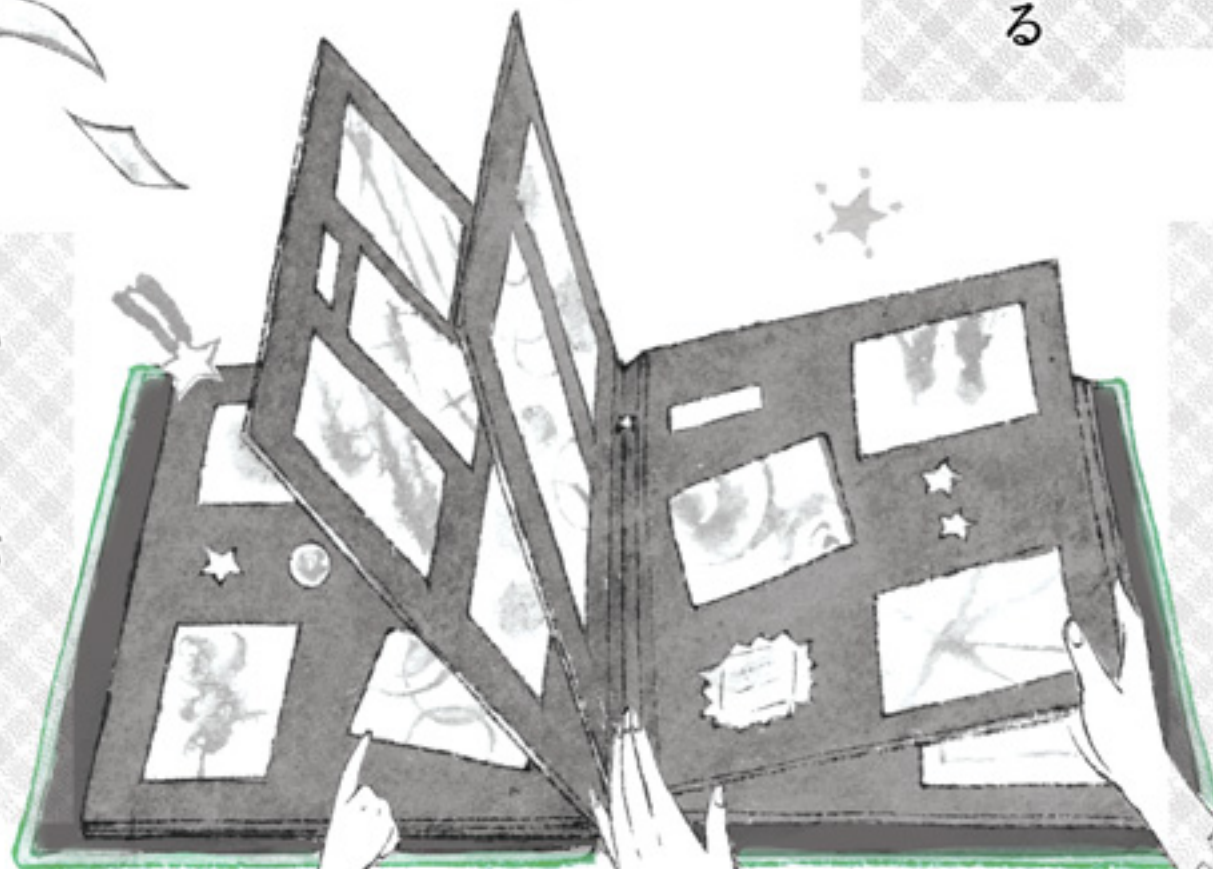




お世辞にも上手い  
写真では無かったが  
どんな写真であれ  
私は撮ってもらえる  
ことが嬉しかった

たくさん写真を撮るので  
うちのアルバムはとても  
大きいものを買っていて

私はそれが  
埋まっていくのが  
とても楽しかった



時が経ち  
高校生に  
なった



ねえ写真…

いいって

私は写真を  
撮られる事を  
拒否するよう  
になった

新しく買ってあった  
アルバムには

最初の数ページが  
埋まっただけで

アルバムの時は止まって  
しまった

私は高校卒業後  
就職し県外で  
働くようになり

うちへ帰るのは年に数回で  
アルバムのことなど忘れて  
しまっていた



stampa  
Tracemaster

そんな私も  
恋人ができ  
無事結婚

子供も  
できた



俺もたくさん

写真撮るようにな  
ったな…



そうだ

母さんにも  
見てもらおう

母は孫の写真を  
とても喜んでくれた





この写真  
もらっても  
いい？

もちろん！



止まっていた  
アルバムの時は  
また動き出した

またこのアルバム  
を埋めることが  
できて嬉しいわ

